



札幌市立あやめ野中学校

学校だより「薫風」第13号

令和7年3月25日（火）発行

令和7年3月25日 修了式のあいさつより

「価値づける日」

校長 大高 雅子

あやめ野中学校での令和6年度の学校生活が今日で終わります。

この1年間、みなさんはどのように時間を使ってきましたか。

3月14日の卒業式では、たくさんの保護者の方が見守る中で、3年生一人一人が立派に巣立っていきました。最後の合唱は、息を合わせ、心を合わせて素晴らしい歌声を響かせ、会場は感動に包まれました。来賓として出席していただいたあやめ野小学校や月寒東小学校の校長先生、かっこう幼稚園の園長先生、町内会の方々が、口々に、合唱に感動したとお話ししてくださいました。

最後の学活を終えた3年生は、笑顔や涙と共に義務教育の世界から巣立っていきました。3年1組の担任の先生が、「中学校の先生をやっていて、最高の日は卒業式」と話していました。同感です。中学校の卒業式は特別だと思います。それは、9年間の義務教育の終わりの日だからです。中学校での学びや人との関わりは、多くのやるべきことの中で展開していきます。そのやるべきことには、一つ一つ異なる手順や約束があり、一つ終わったらまた次へ、次へと進んでいきます。それはみんなに等しく与えられた機会といえます。例えるなら、とても栄養のバランスが整っていて、ボリュームも十分で、よく考えられたフルコースの食事に似ています。それが義務教育なのです。最近は、その食材を自分らしく調理していく探究的な要素も加わって、自分で考え、創造する要素も増えました。等しく与えられ、整えられた環境が義務教育の9年間なのだと思います。“卒業”とは、そのように整えられた環境から旅立つことを意味しています。明日からあなたは今よりも制約のない環境や自由を手に入れますよ、そして、その分だけ自分で責任をとることが増えますよ、と。

“卒業式のすがた”というのは、9年間の学びを経てきた“結果のすがた”です。そして、呼名の短い返事は、育ててくれた人の愛情に対する感謝の心です。私も、そう思いながら、3年生一人一人に証書を渡しました。「おめでとうございます。あなたの門出を心からお祝いします。」というまなざしを向けながら。

あなたはこの1年間、どのように自分の時間を使ってきましたか。

卒業生を見送る私に、ある保護者の方がおっしゃいました。「お世話になりました。うちの子は、友達や先生、いろいろな人に恵まれて、悩んだこともたくさんありましたが、本当に今日の日を迎えることができ、心から感謝しています」と。私は答えました。「よい仲間に出会えたことは、よい仲間をつくれる力があったから。よい先生に出会えたのは、先生の言葉や教えを受け止める力があったから。そしてそのようなつながりの中で悩みを乗り越える力をつけたからですよ。」と。

無駄な時間は1秒もありません。無駄にしてしまったと振り返ったその時間のことは、大切な学びの機会だったと価値づけをすることです。あなたが、あなたの言葉で価値づけ、そのあなたから始めるのです。それは数字の結果のことではありません。過程を価値づけるのです。学びにおける取り組み方のこと、人に対して自分がどのように関わり得たか、と考えることです。そうして、次の策を発想してみるのです。策があって初めて、できる可能性の入口に立つことができます。たぶんそれは人生の中で何度も続いていきます。

今日はそういう大切な修了の日なのです。